

あかふじ

ニュース

第 3 号

発行 平成 2 1 年 3 月
山梨県消防防災航空隊



山梨県ホームページ
<http://www.pref.yamanashi.jp>

やまなし防災ポータル
<http://www.pref.yamanashi.jp/bosai>

山梨県消防防災航空隊
〒400-0108 山梨県甲斐市宇津谷 445-1
T E L 0 5 5 1 - 2 0 - 3 6 0 1
F A X 0 5 5 1 - 2 0 - 3 6 0 3
E - m a i l bousai-kokuu@pref.yamanashi.lg.jp

目次

あいさつ	1
あかふじ4000時間航空無事故達成	2
合同訓練実施内容(平成20年8月~12月)	2
災害活動件数・卒隊隊員紹介	6
あかふじ整備点検について	7
夜間、災害発生時の調査について	8

あ い さ つ

日頃あかふじの運航に格別なる御理解、御協力をいただきましてありがとうございます。

平成7年4月に防災航空隊発足以来、今年度で14年を経過し、あかふじ運航時間にありましても昨年末にて4千時間を越えました。今日まで事故無く運航してこれましたのも各消防本部、また、関係機関皆様方の御支援があってこそと考えております。

近年、災害が複雑多様化していることに伴い、消防・防災活動をめぐる状況は大きく変化しており、全国的に見てもヘリコプターの出場件数が右肩上がり増加の傾向にあり、山梨県におきましても同様となっております。この様なことから今年度には、あかふじの耐空検査期間中に通常の場合離着陸場等の調査と平行し、県内10消防本部にあかふじの説明と消防本部との意見交換会を行わせていただきました。非番での出席、また、当直での業務多忙なところ出席くださいますようお願いいたしました。

意見交換会では職員の皆様からの貴重な意見また質問をいただき、今後の活動に際しての共通認識、さらにはヘリコプターについての理解がますます深まったものと感じております。

航空隊は、住民の身体生命等を守るために、時には厳しい活動条件下で消火・救急・救助等の活動や訓練に取り組んでいます。今後も、関係機関の皆様御理解、御協力を得て、消防防災ヘリコプターの更なる活動の推進を図りながら、災害等の発生時にヘリコプターの機動性を発揮して住民の期待に沿えるよう努めてまいりたいと考えております。

山梨県消防防災航空隊

隊長 丸山 裕司

あかふじ4000時間航空無事故達成

平成20年12月19日「あかふじ」が発足以来、航空無事故4000時間飛行を達成いたしました。ひとえに4000時間といっても簡単なことではなく、訓練を始め緊急運航現場では幾度となく危険を回避しながら、九死に一生を得た隊員が、OB隊員も含め何名もいます。多くのOB隊員の方々が築いた14年の伝統を受け継ぎながら、隊員、操縦士、整備士がお互いを信頼し、三位一体がスクラムを組み安全第一に運航してきたからこそ成しえた記録だと思っております。また、各消防本部の方々に航空隊の活動について御理解、御協力いただいたことを深く感謝申し上げます。今後におきましても、県民の安全・安心の確保のため全力で任務を遂行していきますので、御支援、御協力の程よろしくお願い申し上げます。



合同訓練実施内容

水難救助訓練

(富士五湖消防本部：平成20年8月18日)

富士五湖消防本部管内の、湖での水難救助発生に備えて同消防本部水難救助隊、山梨県消防防災航空隊と連携し救助訓練を実施した。内容は消防本部水難救助隊が潜水、浮上後救出した要救助者を水面で確保している所に航空隊員がホイストスライド降下し救出。また2班目はエントリー(飛び込み)を行い溺者を救助した訓練内容であった。



山梨県警察航空隊合同訓練

(山梨県警察航空隊：平成20年8月22日)

山梨県警察航空隊「はやて」と第1回合同訓練を韮崎市清哲訓練場にて実施した。機種、救出方法及び資機材が異なるため、今回は相互の航空隊が行う救出方法の展示を



実施した。今後継続して訓練を行い、大規模災害時等に備え両航空隊の連携活動強化を図る。

山梨県地震防災訓練

(山梨県：平成20年8月31日)

阪神淡路大震災・新潟県中越地震を教訓として、県、市町村、防災関係機関、自主防災組織等が緊密な連携を図り、速やかに災害応急対策が実施されるよう実践的訓練を行い県民並びに防災関係機関の防災意識の高揚を図るとともに、山梨県地域防災計画の円滑な運営に資することを目的に市川三郷町で訓練を行った。航空消防隊は、天候不良等もあり「あかふじ」と県警ヘリ「はやて」、孤立者救出救助訓練を実施した。今後予想される災害に対して、非常に参考となる訓練となった。



阪神淡路大震災・新潟県中越地震を教訓として、県、市町村、防災関係機関、自主防災組織等が緊密な連携を図り、速やかに災害応急対策が実施されるよう実践的訓練を行い県民並びに防災関係機関の防災意識の高揚を図るとともに、山梨県地域防災計画の円滑な運営に資することを目的に市川三郷町で訓練を行った。航空消防隊は、天候不良等もあり「あかふじ」と県警ヘリ「はやて」、孤立者救出救助訓練を実施した。今後予想される災害に対して、非常に参考となる訓練となった。

甲府市防災訓練

(甲府地区消防本部：平成20年9月1日)

甲府市下向山の中道南小学校で甲府市総防災訓練が行われ、航空隊は上空偵察及び甲府市災害対策本部との無線交信訓練に参加した。

雁坂トンネル総合防災訓練

(東山梨消防本部：平成20年9月11日)

山梨県山梨市と埼玉県秩父市の境にある雁坂トンネル(国道140号線)内で火災を伴う車両事故が発生した場合を想定し、両県及び両市の関係機関との連携を図る総合的な訓練に参加した。「あかふじ」にあっては山梨県側坑

口に搬送された重症患者を東山梨消防本部牧丘救急隊と連携しホイストにて機内収容、医療機関へ搬送する訓練を実施した。

消防職員現場投入訓練

(都留市消防本部：平成20年9月17日)

都留市楽山球場において、林野火災・山岳での救急・救助活動を想定した隊員投入訓練を実施した。事前に航空隊基地にて駐機訓練を行い、安全対策を図り、訓練を実施した。

甲州市勝沼地区防災訓練

(東山梨消防本部：平成20年9月28日)

東海沖地震が発生したことを想定し、勝沼地区の住民を対象にした防災訓練に参加した。「あかふじ」は、東山梨消防本部塩山消防署救助隊及び救急隊が事故車両から救出した傷病者を勝沼中央公園場外離着陸場にて「あかふじ」に収容し医療機関への搬送する訓練を行った。この訓練で塩山消防署隊との連携強化が図れた。

山梨県消防協会峡北支部連合演習

(峡北消防本部 平成20年10月2日)

北杜市内での大規模林野火災を想定し、支部管下消防団員が関係機関(消防・警察・自衛隊)の協力のもと、実践的訓練を実施し、関係機関との緊密な連携を構築するとともに、消火活動等の習熟並びに管下住民の防災思想の普及啓発を図ることを目的に訓練を実施した。

河川水難救助訓練

(峡南消防本部：平成20年10月14・15日)

この訓練は航空隊の自隊訓練の一環として、河川を使用しての急流救助訓練を実施するにあたり、峡南消防本部に訓練の協力を依頼し市川三郷町釜無川で行った。ヘリコプターで河川

という特殊な状況下で迅速的確に要救助者を救助するという事は非常に困難であり、危険を



ともなうため、地上消防本部のバックアップが不可欠であり、今回の訓練においても峡南消防本部救助隊との連携体制を強化できた。

消防隊員現場投入訓練

(東山梨消防本部：平成20年10月7・20日)

山梨市の広瀬ダム公園場外離着陸場にて、林野火災、山岳での救



急・救助を想定した消防隊員投入訓練を実施した。参加隊員31名は事前に航空隊基地にて駐機訓練を実施した後、実際飛行している「あかふじ」から降下訓練を行った。また、地上隊員のヘリコプター誘導要領(マーシャル)訓練も実施、場外離着陸場等での安全管理の連携も強化した。



山梨県緊急消防援助隊訓練

(平成20年10月24日)

平成20年度山梨県緊急消防援助隊出動訓練が、山梨県緊急消防援助隊応援計画に基づき

行われた。本訓練は災害の覚知から緊急消防援助隊出動に至るまで、一連の情報連絡及び出動体制を確立させ、実施計画の徹底と出動体制の迅速化を図るとともに部隊運用の連携を併せて実施することを目的に行われ、航空隊は座屈倒壊建物救出訓練に参加した。



林野火災防御訓練

(笛吹市消防本部：平成20年11月13日)

笛吹市消防本部・笛吹市消防団と八代町ふるさと公園場外で合同訓練を実施した。林野火災を想定し、「あかふじ」へのポンプ給水要領を確認し、実災害活動時において円滑な連携活動が実施できるよう、また職員・団員・航空隊相互の安全管理についての意識高揚が図ることができた。

緊急援助隊関東ブロック合同訓練

(平成20年11月19・20日)

「あかふじ」は1日目の情報収集訓練及び、2日目新横浜公園内で行われた訓練に参加した。情報収集訓練にあっては地震により被災した状況を上空から確認しその旨を山梨県指揮隊に無線送信した。また新横浜公園内での訓練では、山梨県指揮隊から下命を受け、屋上へ地上救助隊が引き揚



げた要救助者を「あかふじ」にて救出した。この訓練での地上救助活動隊は甲府地区消防本部救助隊であり無線を有効活用し円滑な連携が取れた。



のポンプ給水訓練、山岳での救助、救急引き渡し訓練、現場への隊員投入訓練、GPSによるヘリ誘導訓練を実施した。有事の際の有効活用ができるよう連携が図られた。

林野火災防御訓練

(峡北消防本部：平成20年12月10日)

災害時において地上隊員である消防職員及び消防団員と、上空において偵察・消火・救助活動を実施する消防防災航空隊員との連携強化を図り、将来発生が予想される各種災害に備えることを目的に訓練を実施した。この訓練では、地上隊員からポンプ給水を受け、無線誘導により空中消火を行い、ポンプ給水及び無線送信要領を確認した。

消防学校救急課程訓練

(消防学校：平成20年12月1日)

救急科41名を3班編成し救急現場を想定し、山梨県消防防災航空隊との連携強化を目的とした訓練を実施した。



今後、消防活

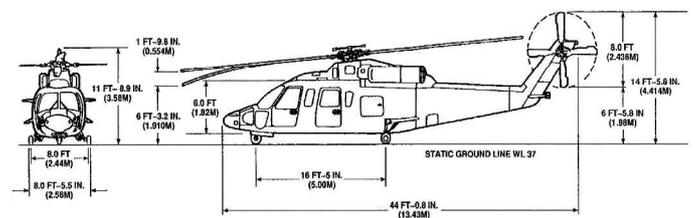
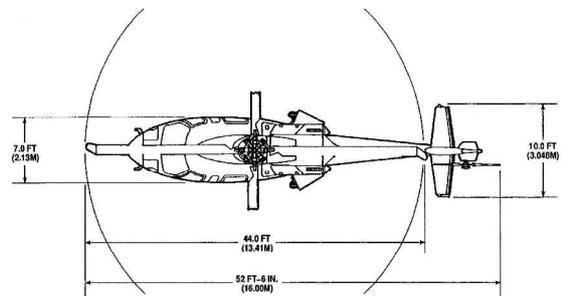
動の現場でさらに活躍する、訓練生はヘリコプターの特性を理解し現場さながらの訓練を実施していた。

航空隊連携訓練

(甲府地区消防本部：平成20年11月27、28、12月3、11、16日)

この訓練は中央消防署(4日)、南消防署(1日)とで

訓練したもので、内容は林野火災で



災害出動件数

	火災	救助	救急	その他	合計
平成19年度	6件	52件	16件	1件	75件
平成20年度	3件	41件	13件	1件	58件

(平成20年度については、2月28日現在)

車隊隊員紹介



副隊長 関口拓治
(東山梨消防本部)



隊員 藤森茂樹
(峡北消防本部)



隊員 久次米大介
(峡南消防本部)

以上3名が平成21年3月31日付で任期満了に伴い派遣元消防本部に帰任いたします。

「各消防本部ならびに各関係機関の皆様には3年間大変お世話になりました。これからは各消防本部に帰り地上から航空隊のサポートを行いたいと思います。これからも山梨県消防防災航空隊共々皆様からの御指導、御鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。」

副隊長 関口 拓治 隊員 藤森 茂樹 隊員 久次米 大介



あかふじ整備点検について

ヘリコプターの整備点検は、飛行時間ごとまた期間ごと行うようにメーカーで定めています。また、1年に1回自動車の車検に相当する「耐空検査」という検査を受けなければなりません。「あかふじ」は年間飛行時間が県で300時間と定められていますので、通常は、耐空検査から耐空検査まで300時間を緊急運航・訓練・防災業務等に振り分け、経過時間ごとに時間点検（25時間毎、50時間毎、100時間毎、150時間毎）を実施しています。点検内容は時間ごとに異なりますが、外観から細かい部品に至るまで、事細かに定められています。この他期間点検や、装備品の経過年数、経過時間での交換、又は分解整備が指定されているものがあります。

今回の耐空検査後（平成21年2月26日運航再開後）の「あかふじ」点検整備予定を参考までにお知らせします。

<u>25時間点検</u>	3月上旬（運休なし）
<u>50時間点検</u> （25時間含む）	4月上旬（半日程度運休）
<u>25時間点検</u>	4月下旬（運休なし）
<u>100時間点検</u> （25・50時間含む）	5月下旬（2日間程度運休）
<u>25時間点検</u>	6月下旬（運休なし）
<u>150時間点検</u> （25・50時間含む）	8月上旬（2日半程度運休）
<u>25時間点検</u>	9月上旬（運休なし）
<u>200時間点検</u> （25・50・100時間含む）	10月上旬（2日半程度運休）
<u>25時間点検</u>	10月下旬（運休なし）
<u>50時間点検</u> （25時間含む）	11月中旬（半日程度運休）
<u>25時間点検</u>	12月中旬（運休なし）
<u>耐空検査</u> （25・50・100・150・200・300時間含む）	1月上旬から2月下旬運休



上記の予定ですが経過時間等により多少前後します。また、予期せぬ不具合等による点検整備等（運休）が発生することがあります。少しでも運休時間を減らすよう整備士を始め航空隊一同努力していますので、御理解、御協力をお願いいたします。

夜間、災害発生時の調査について

山梨県消防防災ヘリコプターは、通常日の出から日没までの活動となっていますが、富士山噴火や地震等大規模災害が夜間発生した場合、「運航マニュアル」の運航基準により山梨県消防防災ヘリコプター「あかふじ」による上空偵察（情報収集）が行えます。（悪天候の場合不可）

災害発生時被害を最小限に抑えるためには、迅速かつ的確な情報収集と正確な情報伝達が不可欠です。消防防災ヘリコプターの機動力と装備されている夜間調査用サーチライト、赤外線カメラ、ヘリコプターテレビ伝送システムを使用することにより、上空から広範囲な被災状況とリクエストに応じた映像をリアルタイムに収集し、県庁に伝送することにより、的確な情報に基づく災害対策が消防本部にて立案可能となります。

その為、定期的にヘリコプターテレビ伝送システムの訓練と夜間のフライト及び情報収集用のサーチライトを使用した訓練を実施しています。



（ナイトフライト訓練：双葉滑空場）



（緊急運航：病院屋上ヘリポート）



（サーチライト 光度1600W）



（ヘリコプターテレビ伝送機材）

